

# 科技高 いきもの記

Vol.22 2021.3.13

佐藤龍平

## 卒業を彩る春の花たち



↑ホトケノザ。春の七草の「ホトケノザ」はコオニタビラコという別の草のこと。ややこしすぎる...



花だけ正面から見ると、ホトケノザとそっくり。

↑ヒメオドリコソウ。ホトケノザと同じシソ科で、よく間違われる。ランニングロードには両種が生えている。見分けられるかな？



↑オオイヌノフグリ。犬の陰嚢という何とも可哀想な名前だが花はとても可愛い。正門横の公園にたくさん生えている。



↑コゴメイヌノフグリ。オオイヌノフグリとそっくりだが花は白い。



つぼみ  
駅までの道にもたくさん生えている。

↑キュウリグサ。葉をもむとキュウリのおいがする。つぼみはくると丸まっていて基部から咲く。



先端が割れて胞子を飛ばす。緑っぽく見えるのが胞子。

↑花ではないけどツクシも出始めた。こう見えてシダ植物。本体であるスギナがつくる胞子茎がツクシの正体。花をつけない植物(コケ、シダ)を知ると、花を咲かせる植物(被子植物)の見方も変わってくる。

今日は卒業式。おめでたい日なので、美しい花の写真を送ります。ここに載せているのは、どれも学校に生えている超普通種で、珍しいものなんて一つもない。いわゆる「雑草」と言われるもので、とるに足らないものと決めつけて、多くの人が気にも留めず、一瞬の迷いもなく踏みつけていることもあるだろう。

でも、ひとたび意識を向けてみると、意外なほど美しかったり、ヘンテコだったりして、「ああなんでこんなに面白いものに今まで気づかなかったんだろう」と思う瞬間が必ずあって、それがまた面白い。

卒業生のみなさんは是非、環境が変わった新天地で、今まで全然興味を持っていなかったものに目を向けてみてほしい。一生知らないままでもまあ困ることなんてないことも山ほどあるだろうけど(雑草の豆知識なんていい例だ)、でもちょっと覗いて見てみると、おもしろいことって本当にたくさんある。校庭の生き物観察だけでも、あれもこれも観察し始めたら、1回の人生じゃ足らないんじゃないかと最近思い始めている(こうなるともう病気だ)。

とにかく、この世には、見ようと思わないと見えない世界がたくさんあるんだ、ということこそ是非みんなにも知ってもらいたい。

春は、寒い冬を乗り越えたいきものたちが躍動し始める、観察にはもってこいの心躍る季節だ。是非、足元に目を向けて、たくましく生きる小さいのちに目を向けてみよう。



↑ノゲシ(ハルノノゲシ)。春の若葉は食べられるそう。キク科は2万種もあり、双子葉類の中で最も進化していると言われている。



↑ミチタネツケバナ。アブラナ科。若い葉は食用にでき、おひたしにするとおいしいとか。